

令和7年度 学校評価結果及び成果と課題

1 課題分析の基準

(1) 以下の基準で、課題を分析する。

- ◇平均の評価点が2.9以下の項目
- ◇平均の評価点は3.0以上だが、一部に2や1の低評価を含む項目
- ◇昨年度の評価点よりも、0.5以上低くなった項目
- ◇職員の評価と、保護者や児童生徒の関連項目との、評価に0.5以上差がある項目

(2) 上の基準に加え、自由記述の内容を併せて確認し、少数意見であっても学校運営を見直す上で必要と判断される場合は、改善策の検討を行う。

(3) 評価の高かった項目に関しては、学校全体で改善策の検討は行わないが、これまでの取組を継続しながら、更に充実を目指す。

2 昨年度の課題への取組結果について

【教職員アンケートの結果からの課題】

(1) ①「聴覚を最大限に活用するとともに、視覚的情報や個に応じたコミュニケーション手段を活用することで、言語力やコミュニケーション力を高め、確かな日本語の習得を図る。」の項目において、昨年度は平均評価が全項目の中で最も低かった(3.1)。令和7年度に、本校の各学部の発達段階におけるコミュニケーション手段や方法についての共通理解を全職員で行った。全日聾研長崎大会開催もあり、外部への共通した内容の発信が可能となったこともあり、平均評価が3.4に上昇した。

(2) 昨年度から継続的に取り組んでいる(9)「働き方改革の推進とコンプライアンスの徹底について」は、取組の周知を図ることで、3.6(+0.3)の評価を得た。業務改善アンケート結果を基に、更なる働き方改革の推進及びコンプライアンスの徹底に努めていきたい。

【保護者アンケートの結果からの課題】

◇昨年度一部低評価のあった、<言語力と確かな学力の育成>4の「新聞を読む機会や読書活動の場面を設定している。」の項目については、今年度も一部低評価があった。今年度、十八親和銀行様や長崎大学玉園同窓会様からの図書の寄贈があり、子供たちの読書活動への意欲も高まっている。子供たちが希望する図書の購入等、今後も蔵書の充実を図ることで、読書活動の活性化につなげたい。また、今後も新聞を活用した教育活動の充実にも力をいれていきたい。

◇<キャリア教育の充実>19の「福祉、医療、進路に関する情報提供がなされている。」の項目については、今年度も一部で低評価が見られた。進路については、キャリア支援部を中心に、保護者学習会の折に講話を行ったり、各学部段階でのキャリア教育や職場実習等を実施したりして、学部を超えて情報共有を図っている。保護者への学校の取組の詳細や、進路に関する情報提供に力を入れるとともに、ニーズに応えるため、関係機関との連携強化を図っていききたい。

【児童・生徒アンケートの結果からの課題】

◇「先生は、児童会・生徒会で自分たちが考えたことを聞いてくれる。」の項目で一部低評価が見られた。生徒の自主性、主体性を尊重し、話し合い活動や行事の準備、運営に取り組みせており、今年度の高評価につながっている。

3 次年度学校全体で改善策を検討する項目について

(1) 課題分析の基準から学校評価検討委員会で課題の抽出を行った結果、以下を検討する。

No.	具体的評価内容	検討の理由	検討主体と手順
職員	(1) ⑤個別最適な学びと協働的な学びを推進するために、ICT機器を活用した指導、支援に家庭と連携して取り組む。	平均評価点が「3.0」以上であるが、の低評価があり、全項目の中で評価点が最も低かった。	ICT機器を活用し、文字・画像・動画・音声など多様な提示方法を組み合わせ、子供の特性に応じた支援を行う。 家庭でのICT機器やアプリの活用ができるような環境整備と、家庭と連携した活用及び、情報モラルの指導を推進する。
保護者	4 新聞を読む機会や読書活動の場面を設定している。	一部低評価	新聞や図書の活用については、自立活動や特別活動の一部で活用している。更に機会を増やす取り組みを行うと共に、子供たちの希望する図書の充実努めていく。
	9 いじめ防止に関する適切な取り組みがなされている。	一部低評価	学校生活アンケート等で、子供たちからの訴えや、情報を正確につかみ、迅速な対応に心掛ける。保護者には、学校の様子を実際に見てもらったり、伝えたりしていくことで、学校と保護者の情報共有を図り、保護者の不安の解消につなげていく。
	19 福祉、医療、進路に関する情報提供がなされている。	一部低評価	福祉や医療との連携に関する保護者のニーズを面談等で把握し、必要な情報を提供していく。 職場実習や体験、企業説明会等への参加等、学校の取組についての情報を適宜保護者に提供する。
	20 保護者はPTA活動に協力的で、計画的に活動している。	平均の評価点が2.9以下の項目	PTA活動ではたくさんの企画を行っているが、参加者が固定化されており、期待するほどの参加率には至っていない。今後もPTA役員と相談しながら、参加者を増やす方策を検討していく。
生徒	6 先生はパソコンやタブレットPCを使って教えてくれる。	一部低評価	ICT機器を使った授業は多くの場面で行っている。授業以外の使い方については、ルールの遵守等課題解決に向けて、方策を検討していく。
	10 先生は寄宿舎生活で、自分たちが考えたことを聞いてくれる。(舎生のみ)	平均の評価点が2.9以下の項目	寄宿舎生が主体的に意見を出し、自治活動ができるような体制づくりを目指す。寄宿舎と学校間の連携を密にし、情報を共有を図りながら舎生の生活を見守っていく。

4 各部で改善策を検討する項目

- (1) 課題分析の基準からの検討課題を導き出す。
- (2) 検討課題がある場合は、それぞれ改善に向けて早急に取り組む。

5 その他

- (1) 即時性が必要な事柄については、早急に改善を行う。
- (2) 2月の職員会議までに、改善対策の方針を整える。